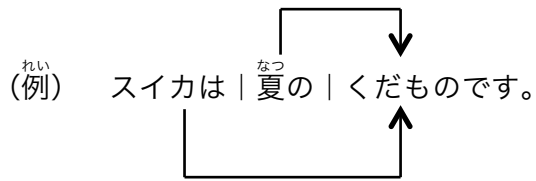


① 次の文を文節に分け、その係り受けを矢印で表しましょう。



(1) わたしは学校に行きました。

(2) 明日は雨が降るでしょう。

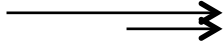
(3) 犬は猫よりも7ひき少ない。

(4) ベテルギウスはオリオン座のオレンジ色の星です。

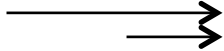
(5) AはBのCです。

①の解答例

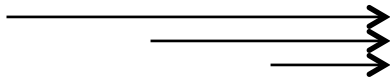
(1) わたしは | 学校に | 行きました。



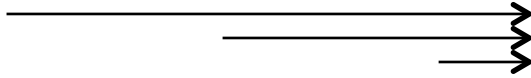
(2) 明日は | 雨が | 降るでしょう。



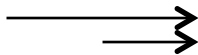
(3) 犬は | 猫よりも | 7ひき | 少ない。



(4) ベテルギウスは | オリオン座の | オレンジ色の | 星です。



(5) Aは | Bの | Cです。



ポイント 主語に対応する述語を正しく捉えられるようになるう！（単文編）

文の意味を理解する上で最も大切な要素が主語と述語です。文の主語と述語をおさえることで、文の内容を大まかに捉えることができます。逆に、主語と述語をおさえずに読んでしまうと、文の内容を間違えて捉えることにつながります。

今回の練習では、文構造が最もシンプルな単文（主語述語の関係が1回のみ文）を使い、主語に対応する述語を捉えられるようになること、それによって単文の内容を正しく理解できるようになることを目指します。

まず、①のプリントで文の構造（文節のつながり方）がどのようになっているのかを理解してもらい、その上で、②のプリントで主語に対応する述語を正確に捉える練習に取り組みます。

指導上の注意

文節分けをまずやらせ、それがすべて合っていることを確認してから、係り受けを考えさせてください。

文の中に子供が知らない言葉が出てきたとしても、問題を解いている時は、その意味を説明しないでください。知らない言葉が混じっている文からでも、意味を読み取れるようになるように、このトレーニングで練習していきましょう。

② 次の文を読んで、質問に文の言葉をそのまま使って1単語で教えてください。

(例) スイカは夏のくだものです。

→ スイカは何ですか？ くだもの

(1) わたしは学校に行きました。

わたしはどうしましたか？

(2) 明日は雨が降るでしょう。

雨がどうなりますか。

(3) 犬は猫よりも7ひき少ない。

犬はどんなですか。

(4) ベテルギウスはオリオン座のオレンジ色の星です。

ベテルギウスは何ですか。

(5) AはBのCです。

Aは何ですか。

②の解答例

- (1) 行きました
- (2) 降るでしょう
- (3) 少ない
- (4) 星
- (5) C

指導上の注意

「1 単語」の意味がわからなければ、例題を使って説明をしてあげてください。単語は「スイカ」「食べる」のような意味を持つ言葉の単位です。「スイカを」や「スイカです」は単語ではありません。

プリントが終わったら、練習のおさらいとして、「述語」という言葉を説明し、「述語」は文の意味を決める大切な言葉であること、文を読むときに述語に着目できると良いことを伝えてください。

→ 「どうする」「何だ」「どんなだ」を表す文節を「述語」といいます。

「述語」は文の最後にくることがほとんどで、文の意味を決める大切な言葉です。

文を読むときに述語に着目できるようになりましょう。

つぎ
次の文を読んで、質問に文の言葉をそのまま使って1単語で答えてください。

(1) わたしはカレーライスを食べました。

わたしはどうしましたか？

(2) さきほど雪がやみました。

雪がどうしましたか。

(3) リンゴはミカンよりも5こ多い。

リンゴはどんなですか。

(4) 月は地球の衛星です。

月は何ですか。

(5) XはYのZです。

Xは何ですか。

Sの解答例

- (1) 食べました
- (2) やみました
- (3) 多い
- (4) 衛星
- (5) Z